

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年11月30日(2006.11.30)

【公開番号】特開2001-114879(P2001-114879A)

【公開日】平成13年4月24日(2001.4.24)

【出願番号】特願平11-293115

【国際特許分類】

C 08 G 63/78 (2006.01)

C 08 G 63/181 (2006.01)

C 08 G 63/85 (2006.01)

【F I】

C 08 G 63/78

C 08 G 63/181

C 08 G 63/85

【手続補正書】

【提出日】平成18年10月12日(2006.10.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】芳香族ジカルボン酸またはそのエステル形成誘導体からなるジカルボン酸成分と、1,4-ブタンジオールを主成分とするジオール成分とを用い、触媒の存在下で、エステル化反応もしくはエステル交換反応およびそれに続く重縮合反応を行うことによりポリエステルを製造するに際し、前記エステル化反応もしくはエステル交換反応を減圧下で行い、かつ重合反応終了以前の任意の段階で、アルカリ性化合物を添加することを特徴とするポリエステルの製造法。

【請求項2】前記ジカルボン酸成分が、テレフタル酸を主成分とする芳香族ジカルボン酸からなることを特徴とする請求項1に記載のポリエステルの製造法。

【請求項3】前記アルカリ性化合物が、ナトリウム化合物、カリウム化合物、マグネシウム化合物およびカルシウム化合物から選ばれた少なくとも1種であることを特徴とする請求項1または2に記載のポリエステルの製造法。

【請求項4】前記アルカリ性化合物を、生成するポリエステル100重量部に対し、0.001~0.1重量部添加することを特徴とする請求項1~3のいずれか1項に記載のポリエステルの製造法。

【請求項5】前記エステル化反応もしくはエステル交換反応の反応触媒として、チタン化合物および/またはスズ化合物を使用することを特徴とする請求項1~4のいずれか1項に記載のポリエステルの製造法。

【請求項6】前記重縮合反応終了以前の任意の段階で、更にリン化合物を添加することを特徴とする請求項1~5のいずれか1項に記載のポリエステルの製造法。